

令和8年度 事業計画



吉備国際大学

I. 建学の理念・教育目標の具現化について

1. 大学の使命・目的及び教育目標の周知徹底

吉備国際大学は、開学以来「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、地域密着型総合大学として、地域に根差した人材の育成に取り組んできた。また、国際化時代を予見し、開学当初から留学生を積極的に受け入れるとともに海外の大学と教育交流協定を締結し、教育・文化交流を図ることにより、学生に国際性を備えた豊かな人間性を身につけさせることに努めてきた。本学の教育の特色と強みはこれからも「地域連携・地域貢献」と「国際化」にある。

開学30周年を迎えた2020年に、建学の理念をより具体的に実現するべく、吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を新たに策定した。このブランドビジョンにより、本学が育成する能力を具体的な三つの力で表し、各学科においてそれぞれをディプロマ・ポリシーに明確に定めて教育を行っている。本学はこのブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

【教職員に対する周知】

- (1) ガルーン(学内グループウェア)トップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョン(=教育目標)を表示して全教職員で教育目標を共有する。
- (2) 令和9年4月に自己点検・自己評価会議を実施して令和8年度の自己点検・自己評価を行い、その結果を受けて令和9年度の目標・計画の作成を行う。
- (3) 内部質保証活動と連動して教育目標及びそれを実現するための教育における2本柱である「地域連携・地域貢献」と「国際化」の周知徹底に取り組む。

【ステークホルダーに対する周知】

- (1) 学生便覧や大学案内、ウェブサイト等のメディアの内容を充実させることで周知を図る。
- (2) 学長をはじめ全教職員が、オープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式さらに高梁学生応援協力会など学内外のイベントでの挨拶やインタビュー等の様々な機会に、本学の建学の理念、ブランドビジョン(=教育目標)と、その目標を達成するための2つの柱が「地域連携・地域貢献」と「国際化」であることをステークホルダーに周知する。

II. 学生確保について

1. ブランディングの強化

ブランドの周知と定着

本学の建学の理念をより具体化したブランドビジョン(=教育目標)である3つの力を伸ばすため大学全体で取り組んでいるのが「地域連携・地域貢献」と「国際化」である。これが本学の教育の特色であることを、あらゆる機会を通じて周知するとともに次期計画も踏まえ、そのための体制を検討する。

2. 入学者受入れ方針(A P)の明確化

A Pに沿った学生の受入れ

専願入試(A0総合選抜・指定校・特別推薦)において、各学科のアドミッションポリシーの質問を追加し、アドミッションポリシーの周知度を確認する。

一般選抜前期A方式(A-II)について、科目試験に加え小論文による選抜を行い、学力の3要素を多面的・総合的に評価する。

一般選抜前期C方式(C-II)について、科目試験に加え外部英語検定試験を利用し、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能を評価する。

3. 収容定員の充足

収容定員充足に向けた募集活動

ブランドビジョンを柱に各学部・学科・専攻の情報発信を行い、入学定員充足を目指す。

オープンキャンパス参加者を増やして、専願入試(AO総合選抜、指定校、特別推薦)の入学者を昨年以上に確保するために高校訪問、進学ガイダンスや出張講義、独自の学校見学会など行い、4月～8月までの広報活動を強化する。

Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、受験生等をウェブサイト等へ誘導してオープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。

本学のウェブサイトやInstagramでの情報発信を充実させる。

「高梁市・順正学園特別奨学金制度」「南あわじ市入学奨励金制度」、岡山キャンパス外国語学科の学生を対象に創設した「伊藤奨学金等の給付型奨学金制度」の周知浸透を進める。

改組等による適切な学科編成

令和8年4月より、吉備国際大学農学部アクアグリーンフィールド学科(入学定員40名)を開設した。初年度入学生は34名、入学定員充足率は85%であった。

この他、社会科学部経営社会学科入学定員を100名から80名へ、社会科学部スポーツ社会学科入学定員を80名から70名へ、看護学部看護学科入学定員を60名から40名へ、アニメーション学部アニメーション学科入学定員を40名から50名へ変更し、新たに2年次編入学定員を10名、3年次編入学定員5名とした。

また、農学部地域創成農学科を農学部農業資源生物学科へと名称変更するとともに、入学定員を50名から40名とした。

更に、令和9年度からは外国語学部外国学科入学を社会科学部外国学科へと改組し、併せて入学定員を50名から40名へと変更する計画である。

今後は入学希望者へ向けた丁寧な情報発信を心がけ、他大学にない【強み】をPRすることにより、定員確保へと繋げる。

III. 教育の充実について

1. 教育改善・向上

ブランドビジョン実現のための教育課程の見直しと充実

“地域連携・地域貢献”と“国際化”を2つの柱とした全学的教育プログラムの策定を、全学教養教育科目を中心に検討をさらに進める。また、英語コミュニケーション力の育成を目指す関連科目の受講率の向上に取り組む。

学修支援の強化

外国人留学生の学修支援として新たに構築し、文部科学省に認定された「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」については、受講者が少ないため、今後、留学生への周知を一層進め、受講者の増加を目指す。

退学者対策については、入学段階及び入学後の対人・学修などに関する不安など、各段階で精神的に問題を抱える学生への有効な支援方法を検討する。

学修成果の可視化の推進と教育改善

「PROGテスト」のデータを活用し、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、教育改善の基礎データとする。令和8年度には1年次と4年次のテスト結果を時系列的に比較し、能力の伸長を確認して学修成果の可視化を進める。また、学生へのフィードバックを丁寧に行い、学生が自らの能力を確認し、大学生活や将来の目標設定、就職活動に役立てられるようにする。

学修ポートフォリオについては、継続して実施し、就職活動に結びつけられるようキャリア教育との連携を検討する。

教育改善の取組みへの学生の参画

昨年度の意見交換会で学生から出された意見要望を、各学科で教育改善できるか検討するとともに、本年度も意見交換会を実施し、引き続き教育改善に繋げる。

大学院教育の転換と受入れの拡大

通学制の大学院について、社会人の受け入れを視野に入れた検討をするとともに、通信制、通学制ともに様々なニーズに対応した教育課程や授業方法を再検討する。

2. 学生支援の充実

学生の意見・要望への対応の強化

学生対応および要望への取り組みを一層強化するとともに、学友会(学生自治組織)と連携し、学生生活の満足度向上に務める。

理事長と学生・学長と学生との意見交換会を実施し、関係性の深化を図りつつ、満足度の向上に務める。

学生の相談体制の見直しと充実

学生部の窓口対応を丁寧に行う。また、ユニバーサルサポート(学生ポータルサイト)を活用し、担当教員や健康管理センターとの情報共有を強化することで、学生の相談内容に応じた、より適切な対応が可能となる体制を整える。

課外活動の活性化(クラブ活動)

学友会(執行委員会、体育部会、文化部会、伊賀祭実行委員会、留学生会)の立て直しを図り、学生自治組織として自立できる体制を構築できるよう支援する。

課外活動の活性化(地域社会との連携)

市民の方々に留学生への理解を深めていただくとともに、留学生と地域住民との交流が図られるよう「インターナショナルフェスタ」の開催を支援する。また、さまざまな地域社会との連携を深めるため、学生部が中心となり、大学全体としての支援を促進する。

キャンパス間交流の充実

大学内で開催するイベントへの参加をキャンパスの枠を超えて促進し、キャンパス間の交流を通じて、本学が一体であるという認識の醸成を図る。

3. キャリア支援の強化

キャリア教育の充実

学生の主体的・積極的なキャリア形成を支援するため、1年次から3年次までのキャリア教育において以下の方策を重点的に行う。

- (1) 「キャリアとは何か」「大学で何を習得するのか」について自ら考え、主体的に行動できるよう、情報提供および実践的なキャリア教育を行う。
- (2) 社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリア・デザイン能力)を高めるための演習やグループワークを行う。
- (3) 就職活動に必要な情報の収集や各種書類の作成、試験や面接に関する知識・スキルを身につけさせ、主体的に進路を決定する力を養う。
- (4) 1年次の「キャリアデザインⅠ」では留学生クラスを設け、日本での生活や制度に関する情報、対人関係や就労に必要な知識とスキルを身につけさせる。

キャリア支援における連携体制の構築

学生及び採用企業のニーズや社会情勢の把握に努めながら、「就職率100%」並びに「就職・進学率90%以上」を目指し、以下の対策を重点的に行う。

- (1) キャリアサポート委員をはじめとする各学科教員と連携し、就職関連イベントやオープンカンパニー、学内就職説明会・ガイダンス等の学生の参加者数の増加を図るため、周知を徹底する。
- (2) 動画やオンラインでの面接、グループディスカッション対策に向けた対応を強化する。
- (3) 「キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」の授業を活用し、3年次生の就職活動や書類作成を実践的に支援する。
- (4) 日本での就職を希望する留学生に対しては、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」に基づき、積極的なキャリア教育や情報提供、就職ガイダンスを実施するとともに、個別面談への対応を強化する。
- (5) 学生の能力や個性を卒業後のキャリアに活かすため、学生部と就職に関する情報を共有するなど、連携を図りながら支援を進める。

4. 図書館の活用

図書館環境の充実

各キャンパスにおいては、専門領域を軸としたカリキュラムに対応する蔵書構築を進めるとともに、電子書籍・デジタル教材・オンラインデータベースの利用促進を図り、利用者ニーズに応

じたサービス展開を拡充する。ラーニングコモンズについては、学修者主体の学びを支える空間運営の継続、地域および学科連携による企画展示の充実、ならびに利用者ニーズを反映した視聴覚資料の収集を進める。

南あわじ志知キャンパスについては、移設に向けた体制整備及び調整を進めるものとする。

岡山キャンパスについては、利用促進を目的にテーマ性と回遊性を高めた企画展示をより一層強化するとともに、企画およびサービス改善に活用するため、利用動向の把握を行う。

5. 学修環境の整備

施設・設備の整備

常時安全に配慮し、経年劣化による施設・設備の要修繕箇所の洗い出しと対応を行うとともに、学修環境を整え、学生の満足度向上に資する環境を整備する。

学修環境の整備について以下の通り実施を計画している。

高粱キャンパスでは、2号館の一部トイレ改修を計画している。

また、南あわじ志知キャンパスでは、新しい講義・演習棟建設に合わせて既存の講義室・体育館等照明のLED化を計画している。

その他、快適な教育・研究環境の維持整備に適宜務める。

IV. 研究推進について

1. 研究力の強化

科学研究費補助金及び公的研究費への応募促進

次年度に向け、科研費申請の有無を個人研究費に反映させる方策を検討する。

学科ごとに設定する科研費申請件数の目標値を確実に運用し、進捗確認や学科内での情報共有を含む組織的な申請促進体制を構築すべく作業を進める。

若手教員・新任教員を中心に、研究計画調書作成支援やメンタリング制度など、申請スキル向上のための体系的支援策を強化する。

学内共同研究費の成果を可視化し、科研費申請への接続をより明確にすることで、研究力強化の好循環を生み出す。

研究部門自己点検・自己評価の実施と評価結果による見直し

研究成果の可視化を学内にとどめず、ウェブ掲載や広報資料などを通じて学外へ発信し、大学全体の研究力アピールを強化するよう努める。

自己点検・自己評価の結果や外部評価の内容を踏まえ、研究支援制度の改善や若手研究者育成施策など、組織的な研究力強化につながる仕組みづくりを検討し推進する。

研究成果の積極的な発信と研究交流の推進

researchmap更新の質を高めるため、教員向けの研修やサポート体制を整備し、研究成果の記述内容やキーワード設定の最適化を促す。

学術研究交流会を単発のイベントで終わらせず、成果のフォローアップや共同研究への発展を促すための仕組みを検討する。

研究成果の発信を地域連携や社会実装へとつなげるため、外部機関との情報共有や共同研究提案につながる仕組みづくりを進める。

2. 社会実装の推進

産学官連携研究の推進

学部単位の産学官連携研究会設置に向け、目的・役割・運営体制を明確化し、学部内での合意形成を推し進める。特に、教員にとっての参加メリットや研究支援制度との連動に関して検討を行う。

産学官連携の機会を拡大するため、地域企業や行政との接点を増やすための仕組みを計画的に整備することを検討する。

研究成果の地域社会への実装

助成金による研究成果を地域社会および学内外へ効果的に発信する仕組みを強化し、社会実装の可視化を一層図る。また、研究成果を地域で実装するプロセスには多くの教育的要素が含まれているため、それらを体系的に整理し、授業や教育プログラムへ還元する仕組みの構築を検討する。

3. 研究倫理・コンプライアンスの充実

研究倫理の確立とコンプライアンスの厳正な実施

コンプライアンス関連規程および研究倫理関連規程の周知と違反の予防を図る。研究倫理教育を一層充実させ、倫理違反ゼロを継続する。また、コンプライアンス教育・啓発活動を充実させ、コンプライアンス違反ゼロを継続する。

研究インテグリティの確保

研究環境の変化とリスクマネジメントの必要性から、これまでの研究インテグリティの取組を基盤とし、研究セキュリティも含めた取組の進展を検討する。安全保障輸出管理も併せ、技術流出リスクに対する多様なリスクマネジメントが求められていることから、研究活動のリスクを正しく評価し、リスクに備えるため、継続的な情報収集と啓発活動を行う。

研究データポリシーの策定

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(国のOA基本方針)」(関係府省申合せ)において求められる学術論文及び根拠データの公開のため、本学の機関リポジトリにおいても公開可能であることを引き続き啓発する。

動物実験への倫理的配慮

動物実験の自己点検評価、動物実験内部監査、動物実験に関する教育を確実にを行い、動物実験の基本指針と倫理的配慮を継続して徹底する。

4. 安全への配慮等

化学物質の管理

実験の安全管理について、法令遵守を基本として、今後も徹底する。

組換えDNA実験等の安全管理

今後も組換えDNA実験安全管理規程を確実に遵守し、DNA実験等の安全管理に努める。

V. 大学運営について

1. 持続可能性の追求

SDGs達成を目指した活動の推進

(1) 持続可能性を志向した活動の推進

① 学内における研究活動および組織活動のSDGsゴールへの紐付けについては、引き続き検討を進め体系的な整理を試みる。

② SDGs教育研究活動助成金の配分については実施できているものの、採択件数の拡大や研究成果の可視化が十分ではないため、助成制度の周知強化と成果発信の仕組みづくりを考える。

(2) 全授業でSDGsゴールをシラバスに明記しているが、形式的なレベルにとどまらず、教育内容に根差した質の高い紐付けへと改善することを検討する。

(3) SDGs活動の公開は行っているものの、情報の体系的な更新頻度に課題が残る。そのため大学全体の取り組みを一元的に整理し、継続的に更新できる情報公開体制の整備を検討する。

環境マネジメントの推進

(1) エネルギー消費量の削減

① 令和5年度に策定された中期目標に従い昨年度比で年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を目指す。

② 機器更新時に省エネ機器を設置するとともに、キャンパス内の電灯のLED化を更に促進し、エネルギー消費量を削減する。今年度は南あわじ志知キャンパス照明のLED化を行う計画である。

③ キャンパス内の空調管理を適切に行うことにより、エネルギー消費量を削減する。

④ 環境教育等の啓蒙活動を充実し、教職員および学生の省エネ意識を向上させ、エネルギー消費量削減行動を推進する。

(2) 環境マネジメントシステム(EMS)活動の確実な実施

全キャンパスにおけるEMS活動の推進および情報収集に継続的に取り組み、環境負荷の低減を目指す。

(3) EMS教育の推進

- ① 新入生・在学生オリエンテーション時にEMS教育を実施し、全学生のEMS活動への参加を促進する。
- ② 教職員にも教授会やガルーン(学内グループウェア)のメールでEMS活動への参加を促進する。

2. 職能開発の強化

FD・SDの充実

本学の建学の理念である「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」の実現に向け、教育目的および教育目標(=ブランドビジョン)を踏まえたFD・SD活動を推進する。特に、学生が実践的な知識を主体的に学び、多様化する社会の中で自らの可能性を信じて成長していくことを支援するため、教職員の教育力、組織運営力および職能の向上を図る。また、本学の特色である「国際化」および「地域連携・地域貢献」を教育研究活動に活かし、授業内容や教育方法の改善に継続的に取り組むとともに、大学運営に必要な知識、倫理観および実践的能力を備えた教職員の育成を目指す。

具体的には、春学期に全学的なFD・SD研修会を実施し、教育改善および大学運営に関する共通理解を深める。研修テーマとしては、アクティブラーニングの推進、学生の自己効力感の涵養、本学の特色である国際化および地域連携・地域貢献に関する内容を検討する。加えて、安全保障貿易管理、研究インテグリティの確保、人権・同和教育など、大学に求められる社会的責任や適正な組織運営に関わる内容についても取り上げる。秋学期には、各学科・専攻の教育課題や特色に応じた学科・専攻別のFD研修会を開催し、教育方法の改善と教員の資質向上を図る。さらに、研究費の適正使用、不正防止、研究倫理に関する全学研修会を実施し、教職員のコンプライアンス意識および研究倫理に対する理解を一層深める。

3. 人権・安全への配慮の充実

労働環境の整備、充実

公益通報に関するコンプライアンス窓口を設置し、通報者の人権が適切に守られる体制を整備することで、不利益取扱いを防止し、安心して通報できる環境を構築するとともに、可能な限り通報の必要がないよう労働環境の整備、充実に努める。

人権関連の研修の充実

人権に関して配慮が必要な事項が多様化する中、学生及び教職員に対して適切な教育、研修が必要となってきたため、必要な対応ガイドラインなどの整備や人権教育により、差別のない環境づくりを検討するとともに、引き続き、キャンパス・ハラスメントの防止、排除に向けた啓発活動を行い、適切に対応ができるようにする。

4. 法人部門との連携の円滑化

管理運営機関の連携と相互チェック

改正私学法及び新寄附行為に基づき、法人の管理運営機関を整備し適切に運営する。理事会には学長が理事として出席し、学園の意思決定において大学を代表して意見を述べる。また、学園協議会において設置校間に共通する重要事項を協議し、相互の連携強化および業務運営の円滑化を図る。大学協議会は、総長が招集し議長となって、大学の教学に関する重要事項の意思決定に際し、理事会との意見調整を行うことで、法人運営と教学運営の調和を確保し、意思決定プロセスの円滑化を推進する。

さらに、理事会、評議員会、学園協議会および大学協議会等を適切に運営することにより、各管理運営機関が相互に連携しつつ、チェック機能を発揮させる。

監事は、理事会および評議員会に出席して学園の業務および財産の状況、ならびに理事の職務執行状況を把握し、必要な意見を述べる。あわせて、会計監査人および内部監査部門と連携して監査業務を実施し、その結果を理事長に報告することで、法人運営の適正性および透明性の確保に努める。

5. 財政基盤の確立

中期的な計画に基づく財務運営と安定した財務基盤の確立

決算をもとに中期財務計画を見直し、学園の将来的な財務状況の推移を的確に把握するとともに、計画に基づき安定した財務基盤の確立に取り組む。

学納金に加え、補助金をはじめとする外部資金の獲得による収入の増加を図るとともに、人件

費を含む経費全般の見直しと削減を進め、支出の抑制に努めることにより、収支バランスの改善を目指す。

特に学納金については、大学のブランディングに基づく効果的な広報活動を展開するとともに、魅力ある大学づくりを目的とした学部・学科の再編、高梁市・順正学園特別奨学金制度をはじめとする本学独自の学生支援策の充実、さらには地域や企業との連携による募集戦略を推進し、定員確保を目指した学生募集の強化に取り組む。

6. 適正な会計処理の実施

職員の知識向上

学校法人会計基準に準拠し、学園の経理関係諸規程に則った適正な会計処理を行う。それを行う上で必要な知識向上を図るため、私立大学協会が行う経理担当者研修会に参加して得られた知見を会計課内で共有する。

また昨年度より施行された「学校法人会計基準の一部を改正する省令」に基づいて新基準に対応した適切な会計処理が行えるよう、関係資料を熟読して会計担当職員の知識向上に努める。

会計監査の厳正な実施

監査法人による期中監査・実査・期末監査を滞りなく実施する。

公的研究費については、監査法人の監査の他に常勤監事が科学研究費助成事業等に関わる経理関係全ての証憑書類の確認を含めた厳格な監査を実施する。

諸規程に則った適正な会計処理

今年度の学校法人全体の予算編成方針に従い各部門で目的別に編成した予算について、関係諸規程に則って起案を行い適切な会計処理を行う。

VI. 内部質保証について

1. 内部質保証体制の確立

内部質保証体制図に基づくPDCAサイクルの仕組みの確立

引き続き「吉備国際大学アセスメントプラン」に基づく「アセスメントプラン実施計画」を実施し、検証結果から“課題”を“改善”へと繋げるための見直しも図るとともに、各委員会での議論を活性化し、内部質保証委員会の改善指示のもと改善案を策定し実行する。

IRを活用した十分な調査・データの収集と分析の実施

引き続きIRを活用した調査やデータ収集を行うとともに、今後蓄積されたデータを分析し、改善に繋げる。

VII. 地域連携・地域貢献の推進について

1. 地域連携・地域貢献の推進

地域貢献推進センター

地域貢献推進センター会議を定期的で開催し、高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパスの3つの地域連携センターとの情報交換を密に行う。また、地域貢献推進センターを核として地域連携・地域貢献活動を推進する。

吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催する。

地域連携・地域貢献活動記録を作成する。

地域連携・地域貢献活動の一層の発展のためコーディネートや運営の強化を推進する。

連携協力協定の締結

自治体との間で連携協力協定の締結を推進する。

高梁市および南あわじ市と産学官連携に関する情報交換会議を定期的に行う。

地域課題解決への寄与

産学官連携により地域課題の解決に取り組む。

教職員の成果を可視化するための方法を検討する。

地域連携・地域貢献活動の推進

「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組む。

各教科において地域連携活動及び地域貢献活動を取り入れる。

ボランティアセンターを核として、地域貢献ボランティア活動を推進する。

地域貢献教育研究活動助成金を配分し、教員・学生等による地域貢献活動を支援する。

大学コンソーシアム岡山の「吉備創生カレッジ」や「日ようび子ども大学」などの地域連携事業に積極的に携わる。

高大連携活動として「英語スピーチコンテスト」や地域の高等学校との連携活動を行う。

地域連携・地域貢献活動の活性化に向け、コーディネート機能の充実と運営体制の強化を推進する。

2. 大学の持つ知の地域への還元

公開講座の開催

公開講座を年間20講座以上開催する。

「英語講座」や「街づくり講座」など、「地域連携・地域貢献」および「国際化」にウエートを置いた講座の開講を検討する。

地域連携・地域貢献活動の活性化に向け、コーディネート機能の充実と運営体制の強化を推進する。

出張講義等

高等学校への出張講義を継続するとともに高等学校の探究授業への支援方法を検討する。

国際理解教育、探究学習への支援など、小・中・高等学校と連携した授業を実施する。

イングリッシュキャンプやインターナショナルフェスティバルの開催など、小・中・高等学校の生徒と大学生が交流する活動を実施する。

地域連携・地域貢献活動の一層の発展のためコーディネートや運営の強化を推進する。

留学生の学びの場として活用するとともに、小・中・高校生への国際理解教育や英語教育の推進を図る。

3. 地域貢献人材の育成

フォーラム等の開催

学部単位でフォーラム、講演会等を主催して開催や他のより効果的な地域貢献人材の育成に関する取り組みを目指す。

地域課題解決型授業

カリキュラム改定に合わせて、全学科が地域課題解決人材を育成する授業を2科目以上、専門教育科目の中で開講する。

現在のカリキュラムにおける各授業での「地域連携・地域貢献」、「国際化」の組み込みにおける課題や展望を整理し、今後の方向を検討する。

地域貢献人材育成プログラム

履修証明プログラムの受講者受け入れ体制を整備する。加えて、市役所や地域事業所など地元の官民の取り組みの現状や意向の把握に努め、地域に貢献する人材の育成プログラムを検討する。

VIII. 国際化の推進について

1. 国際化に向けた科目内容の充実

国際化に向けた英語学習の充実と異文化・国際事情理解の推進

外国語学部以外の学部(高梁キャンパス・南あわじ志知キャンパス)の英語教育については、語学実践力養成に向けた教養科目の語学教育について見直しを検討していく。併せて本学の教育の特色である「地域連携・地域貢献」と「国際化」を軸としたグローバル教育プログラムを検討する。

海外留学・短期研修の促進

海外からの研修団の受け入れを通して、異文化理解の魅力を感じてもらい、短期研修や留学への興味を持ってもらうような取り組みを実施する。

留学生に対する学修支援の充実と生活環境の整備

日本語能力試験合格に向けたモチベーション向上を目的として、受験料補助を引き続き実施する。
アルバイト情報を効率的に提供できる運用の検討を行う。

国際社会で活躍できる職能教育と留学生に対する就職支援

キャリアサポートセンターにキャリアカウンセラーの有資格者を留学生担当として配置し、サポート体制の強化を図る。また、学外で開催される企業合同説明会等への参加を促すとともに、学内においては個別企業説明会を実施する。

2. 国際交流の充実

日本人学生と留学生の相互理解の深化による国際人の育成

留学生と日本人学生が協力してインターナショナルフェスタ等のイベントを企画・運営することで、自主性や協調性を養うとともに、互いの出身国への理解を深め、国際社会で活躍するためのスキルを身につける。これらの活動を通じて真の国際人の育成に努める。

外国人との各種の交流活動を通じた国際感覚の醸成

留学生に限らず、海外からの研修団や地域に在住する外国人など、多様な国の人々と、ゲームやスポーツ、イングリッシュキャンプ等のイベントを通じて交流し、楽しみながら英語に親しむ機会を設ける。これらの交流活動を通じて、外国や異文化への興味を深め、国際人としての感覚の醸成を図る。

地域社会のグローバル化への貢献

インターナショナルフェスタを開催し、地域住民に積極的な参加を呼びかけることで、本学の留学生との交流を促進するとともに、地域における異文化理解の深化につなげる。

本学の留学生と地域の中高生が参加する国際交流イベントを開催し、双方の国際理解の促進を図る。

国際交流プログラムの強化と海外の大学等との連携強化

海外の協定校からの夏季短期研修生の受入れに際し、日本人学生との交流機会をより多く設けることで、学生相互の国際理解の促進を図る。

日本人学生を対象とした長期休暇期間を利用する協定校への短期研修が、コロナ禍以降途絶えていたため、これを再開し、海外の協定校との連携強化を図るとともに、学生に国際感覚を養う機会を提供する。

社会科学部の計画

学生確保

【目標】 定員充足率100%の達成

- 【計画】
- ① 入試データおよび入学理由の分析を広報戦略に活用し、各学科に関心を持つ高校生を把握し、効果的に広報活動を展開する。
 - ② 各学科における新カリキュラムの「特色」や「強み」を明確にし、学部共通の短期留学とともにオープンキャンパスやSNSを活用して情報を発信する。
 - ③ 経営社会学科では留学生別科および海外支局と連携して留学生の確保を図るとともに日本人学生の募集にも注力する。スポーツ社会学科においては、強化クラブの学生に加えて一般学生の確保にも取り組む。

教育の充実

【目標】 ① 新カリキュラムの円滑な運用と旧カリキュラムからの移行を図る。

② 退学者0名の実現

【計画】 ① 学部共通の短期留学プログラム開始に向け、具体的なプログラム内容を確定する。

- ② 学習意欲の低下による退学者を防ぐために、教員間における情報共有の徹底を図るとともに、基礎演習や演習科目等を通じて学生の学習意欲を継続的に支援する体制を充実させる。

研究推進

【目標】 研究活動の継続的な実施、科研費の申請(30%)・獲得、共同研究の充実

【計画】 ① 各教員が積極的に学会発表、研究論文発表を行う。

② 科研費、民間研究費など積極的に応募する。

③ 学内の他学科や他大学との共同研究を推進する。

④ 地域課題に焦点をあてた研究活動を展開する。

⑤ 業務の効率化および業務分担を検討し、研究活動に充てる時間を確保する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携・地域貢献のさらなる推進

【計画】 ① 高梁市を中心とした地域貢献活動を継続的に実施する。

② 学生が主体となった地域貢献に関わるプロジェクトを教員がサポートする。

③ 出張講義(講座)や講演会の講師派遣を通じて学術的知見を地域社会へ還元する。

国際化の推進

【目標】 学部独自の短期留学プログラムの導入、留学生を通じた国際交流活動の推進

【計画】 ① 短期留学プログラム導入に向けて、両学科と留学先であるマーセッドカレッジとの連携を強化し、具体的なプログラム内容を確定する。

② 日本人学生と留学生が共に学びあう機会や交流プログラムをさらに促進し、国際交流の機会と質の充実を図る。

経営社会学科の計画

学生確保
【目標】 定員充足率100%の達成。 【計画】 ① オープンキャンパス参加者の満足度向上を図る。 ② 新カリキュラムの特長を活かした広報戦略を策定・実施する。 ③ 入試広報室と連携し、入学者データに基づく広報チャンネルを拡充する（出張講義等を含む）。
教育の充実
【目標】 ① カリキュラムの円滑な運用と旧カリキュラムからの移行を図る。 ② 退学者率を3%以下とする（2025年度3.7%、2024年度2.2%）。 【計画】 ① 学部短期留学プログラム、KIUBを活用した起業型授業の運用を開始する。 ② 基礎演習・演習を通じた学生支援体制をさらに充実させる。
研究推進
【目標】 各教員の研究活動の継続的実施、学科3割以上の教員が科研費申請（継続含） 【計画】 ① 各教員が少なくとも年間1本or1回の研究論文執筆・学会報告を行う。 ② 学科内における共同研究を推進する。 ③ 外部研究費（科学研究費助成事業、民間助成金）へ積極的に応募する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】 地域連携・地域貢献活動を一層推進する。 【計画】 ① 地元入学率の向上を図るため、高梁市を中心に地域連携・貢献活動を継続する。 ② 学科ブランドの地域への浸透を図るため、学生主体の地域活動を積極的に支援する。 ③ 出張講義・研修会を通じ、学科の専門性を地域社会に還元する。
国際化の推進
【目標】 9か国の学生が共に学び合う多文化理解教育体制をさらに充実させる。 【計画】 ① 多文化理解を深める交流プログラムを拡充する。 ② 留学生の日本語学習意欲向上を図る（学年ごとの目標設定等）。 ③ アメリカ短期留学プログラム開始に向け、留学先であるマーセッドカレッジと具体的なプログラム内容を確定する。

スポーツ社会学科の計画

学生確保
【目標】 定員充足率100% 【計画】 ① 入試広報室、学科各教員の情報収集と情報共有を徹底する。 ② 模擬授業、ガイダンスの積極的な参加、オープンキャンパスを強化する。 ③ 新カリキュラム・スポーツ短期留学について周知する。 ④ 情報発信活動を継続して実施する：InstagramやFacebook更新を継続する。 ⑤ 強化クラブに加えて、一般学生確保に向けて上記計画を徹底する。
教育の充実
【目標】 ① 各種資格試験・教員採用試験の合格率向上に向けた支援体制システムの構築 ② 退学者0名の実現 ③ 新カリキュラムの円滑な運営 【計画】 ① 各教員が連携し、成績が振るわない学生への個別指導を実施する。 「縦・横・全体のつながり」を強化し、学生の意欲向上を図る。 ② 基礎演習・演習科目の更なる充実により学生支援体制を整える。 ③ 短期留学プログラム開始に向け、具体的なプログラム内容（教養科目・スポーツを多角的に捉えることができる内容）を確定する。
研究推進
【目標】 研究活動の継続的な実施、競争的資金の獲得、共同研究の充実 【計画】 ① 研究時間を確保する。 ② 科研費、民間研究費など積極的に応募する。 ③ 学科内、学内、他大学との共同研究を継続する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】 地域連携・地域貢献の推進 【計画】 ① 現在実施している地域連携・地域貢献活動を継続する。 ② 出張講義や講演会の講師派遣を通じて学術的知見を地域社会へ還元する。
国際化の推進
【目標】 スポーツ短期留学の推進 【計画】 ① スポーツ留学経験者による情報収集、発表会を実施する。 ② 短期留学先（マーセッドカレッジ）と具体的なプログラム内容を確定する。

看護学部 看護学科の計画

学生確保
【目標】 定員充足率（学部生・編入生）100%を目指す。 【計画】 ・看護学科教員が高校訪問を実施して、進路指導教員等との関係を構築する。 ・進路ガイダンス、大学見学、Instagram、ウェブサイトを活用し認知度を高める。 ・OCを参加者の希望に応じて、主体的に参加できる内容に変更する。
教育の充実
【目標】 国家試験（看護師・保健師）合格率100%、就職率100%を達成する。 【計画】 ・全教員が連携し、1年次から計画的な国家試験対策に取り組む。 ・4年次は、4月より成績不振学生への個別対応を実施する。 ・キャリアサポートセンターと連携し、計画的な就職支援対策を実践する。
研究推進
【目標】 教員が研究に意欲的に取り組み研究業績の向上、科研費等の獲得を目指す。 【計画】 ・各教員が学内外の学術交流を通して研究を発展させ、計画的に取り組む。 ・科研費採択に関する研修会等に参加し、科研費採択（2件以上）を目指す。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】 高梁地域と連携し、地域に貢献できる看護職者を育成する。 【計画】 ・高梁市や関係機関との連携活動、学生ボランティア、講師派遣を継続する。 ・臨地実習を通じて、地域貢献に優位な人材を育成する。
国際化の推進
【目標】 多様な文化や価値観を理解し、看護職としての国際的視野を養う。 【計画】 ・多様な文化、価値観等の理解を深める学内国際交流事業の参加を指導する。 ・おしゃべりカフェ参加を推進し、留学生と交流により異文化を理解する。 ・学生の留学、研修参加ニーズを把握して、支援する。

理学療法学科の計画

教育の充実

【目標】 国家試験合格率100%、および退学者発生の防止

【計画1】 教育内容の改善の実行

- ① 国試対策により専念できるように、卒業研究発表の負担軽減を図る。
- ② 学生のキャリア形成力を高められるよう、就職活動に関する助言を積極的に行う。
- ③ 留年生には、休学中（春学期）から苦手分野の基礎医学の対策を早め、習熟を促す。

【計画2】 退学予防

- ① 5年目以上在籍学生の春学期（休学中）対策を行い、信頼関係および修学動機を維持し、基礎医学の得点率を高める。
- ② キャリアに迷いを抱える学生などに対して、面談を実施する。

研究推進

【目標】 競争的資金獲得の増加

- 【計画】
- ① 科研費、民間助成金の獲得に向けて応募件数を増やす。
 - ② 企業との共同研究契約事業、社会実装などを継続する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 教員による地域貢献活動の活発化

- 【計画】
- ① まちなかゼミナール、臨床実習指導者講習会等への参画を継続する。
 - ② 研究課題を通じた新たな産学連携を開拓する。

【目標】 地域連携に通じる専門科目教育の増加

- 【計画】 3年生は「地域マネジメント学」「リハマネジメントⅠ・Ⅱ」等でゲストを招聘して社会貢献のあり方についての授業を行う。

国際化の推進

【目標】 国際的な活躍につなげていくための教育の増加

- 【計画】 国際貢献の実績がある病院を、実習先に加える。

作業療法学科の計画

教育の充実

- 【目標】 国家試験合格率100%、退学者・除籍者0%および就職率100%達成を目指す。
- 【計画】 教員が連携して、学生1人ひとりに応じた丁寧な対応を実施し、学習の促進及び大学生活への適応を支援する。

研究推進

- 【目標】 競争的資金の獲得を目指す。
- 【計画】 科研費や助成金等の外部研究費に応募する。論文や著書の執筆、学会発表等の実施を奨励する。教員間の学術交流に取り組む。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】 地域連携・地域貢献を継続する。
- 【計画】 高梁市や関連施設との連携を通して、地域の課題解決に向けた取り組みを行うとともに、地域に貢献できる人材育成に取り組む。

国際化の推進

- 【目標】 国際人としての視点育成を目指す。
- 【計画】 授業等を通して国際的な視点の学習に取り組む。留学生との交流を通して異文化理解を促進する。

心理学部 心理学科学科の計画

教育の充実
個人の希望する進路の実現を支援する。大学生活への適応に困難を抱える場合は、「ほっとルーム」などの支援源へ適切につなぐ。
研究推進
科研費申請を推進する。
地域連携・地域貢献の推進
地域でのボランティア活動を希望する場合は、その機会を紹介する。
国際化の推進
地域活動を通じて地域の国際化を支援する。

農学部の計画

学生確保

【目標】 新入生の定員充足率100%を目指す。

【計画】 農業資源生物学科への改名、アクアグリーンフィールド学科の新設など、思ったほど情報が浸透していないことが判明したため、InstagramやyoutubeなどのSNSの更なる情報発信、閲覧者の解析、SNSの効果検証及びターゲット地域の検討を行う。また、オープンキャンパス等では学生自身が「何を大学で勉強したいのか」等の問題意識を芽生えさせるために、3学科共に体験型学習事例を増加させる。

教育の充実

【目標】 学ぶ楽しさ世界1をスローガンとし、退学者0名を目指す。

【計画】 学ぶための原動力の気づきを誘導し、原理と実践をつなげ、学生に学ぶ楽しさを実感してもらう教育を行う。また、学生数が増加するため、さらに細やかな指導と、教員間の情報交換を密に行う。

研究推進

【目標】 競争資金の獲得。

【計画】 学部内学術交流会の開催を計画し、教員間の相互理解と学科間での共同研究体制を構築する。

地域連携・地域貢献の推進

・地域の課題（耕作放棄地、獣害等）をデータに基づき分析・解決策を提示するシンクタンク型及び大学がハブとなり、自治体・企業・農家を繋いで新しいビジネスを生むプラットフォーム型の地域連携は、これまで多くの課題を実施しており、今後も引き続き行なっていく。地域全体を「実験場」とし、新技術の実証実験を市・地域住民と共に行うリビングラボ型地域連携の実施例が若干少なく、今後強化する。

・南あわじ市との連携をさらに深め「4つの研究会」を学科単位で行えるように「3つの研究会」に組み直し、地域の問題を市とともに解決できる体制を構築する。

国際化の推進

【目標】 海外留学生との交流の活発化

【計画】 岡山キャンパス、高梁キャンパスの海外留学生へ、農学部主催のイベント(さなぶり祭、くにうみ祭)のアナウンスを行い、より多くの参加者を確保し、学部学生との文化の相互理解を促進する

農業資源生物学科の計画

学生確保

【目標】 新入生の定員充足率100%を目指す。

【計画】 オープンキャンパスの刷新・強化を行う。本学科のコンセプトである6次産業化をより実感できる講義や体験型イベントを実施し、本学科の魅力や独自性をアピールしていく。さらに、各回ごとに異なるプログラムを提供することで、リピータを増やし入学意欲を高めていく。引き続き、在学生在が主体的に活躍するオープンキャンパスを実践し、高校生や保護者にとって、親しみやすく、キャンパスライフを実感できる場を提供していく。また、従来からの懸案事項である女子学生比率の低さを改善するためのワーキングチームを形成し、在在学生へのヒアリングや座談会を実施することで、問題点を明確にし広報活動に役立てていく。加えて、SNSでの情報発信を積極的に行っていく。

教育の充実

【目標】 退学者を出さない。産学連携と実践的な学びの提供。実習講義の充実および座学講義との連携。

【計画】 連続欠席者などの情報を頻繁に共有し、チューターのみならず学科教員一丸での徹底的なフォローを実践していく。また、早期に三者面談を実施し問題解決に向け細かな対応を行っていく。現在、川崎重工業との環境教育プログラムを実施しており、最新の環境対策技術やプラント建設現場を学ぶなかで、グローバルな視点をやキャリア観を育成するのに役立てていく。本学科では、実習・実験講義を重視し創意工夫を凝らして推進してきた。本年度も引き続き、実習科目とそれに関連する座学科目を連携・補完させ、原理と実践の両面から学習し体得することで、学生の理解度と満足度がより高まる講義体系の構築を目指す。また、資格科目の単位取得を推奨していく。

研究推進

【目標】 共同研究の推進と外部資金の獲得

【計画】 学内外にとらわれず共同研究を推進していく。特に、海洋水産生物学科やアクアグリーンフィールド学科と積極的に連携し共同研究を提案実践することで、互いの特色を活かし、科研費など競争的資金の獲得に繋げていく。また、学会や学術誌での成果報告を推奨していく。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携・地域貢献の推進強化と成果の発信

【計画】 既に、本学科では数多くの地域貢献活動を行い地域の魅力を発信しているが、連携活動をさらに継続・強化していくため、地域連携に関わる外部資金の獲得を目指す。その際、連携活動の成果をWebやSNSを通じて地域社会に分かりやすく発信し、本学科の知名度を高めていく。本学科の弱点である地元学生の少なさを解消していく上で重要な取り組みと考えている。

国際化の推進

【目標】 他キャンパス留学生との交流

【計画】 他学部学科の留学生を田植え（さなぶり祭）などのイベントに招待し、本学科学生が文化的多様性の理解を深める場を提供していく。

海洋水産生物学科の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%を目指す。

【計画】オープンキャンパスを強化し、受験生、保護者、進路指導教員に対し魅力的な情報を提供する。また、SNSを活用することにより、教員に加え学生からも情報発信を行い、学科の認知度を高める。マスメディアとの良好な関係を継続するとともに、高校訪問、出張講義にも注力する。

教育の充実

【目標】体験型学習や魅力のある授業を行うことにより、「海業」全般に関する基礎的な知識を習得させる。退学者0名を目指す。

【計画】吉備アクアパークにおいて学生一人に一台ずつ水槽を管理させるとともに、臨海実習棟を活用し、水生生物の採集や飼育を体験させる。大学祭等のイベントでスモールビジネスの模擬体験をさせる。また、退学者防止策として、学科教員間の情報交換の機会を増やすとともに、学生とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の異常を早い時期に察知し、きめ細かい指導を心がける。

研究推進

【目標】科研費をはじめ競争的資金の獲得に努力する。教員間の学術交流を活発にする。

【計画】教員間で積極的な学術交流を行うとともに、科研費やその他の競争的資金への応募を積極的に行う。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地元自治体と連携し、イベントや会議に積極的に参加するとともに、定期的な調査の実施により地域の環境改善事業の進展にも貢献する。

【計画】兵庫県が設置した「ひょうご豊かな海づくり県民会議」、南あわじ市が実施する「福良湾環境保全事業」等に参画し、漁場環境研究や学生による豊かな海づくり活動を進展させる。また、「まるやま水族館」や阿那賀地区公民館活動など、地域住民や自治体と緊密に連携をとりながら、地元のイベントへの参加・協力も積極的に取り組む。

国際化の推進

【目標】農業資源生物学科、アクアグリーンフィールド学科と協力し、海外留学生と日本人学生との交流を促進する。

【計画】さなぶり祭等のイベントにおいて、魚介類を含めた様々な食材によるバーベキュー等を行い日本の食材についてよりよく理解してもらう。

アクアグリーンフィールド学科の計画

学生確保

【目標】 R9新入生の定員充足100%を目指す

【計画】 今年度の入学生は7割以上がOC参加者（高1・2年時含む）であり、前半の試験入学（指定校前期・AOI期）が6割を占めた。今年度は5名の新任教員を迎えたことから、教員の専門分野の魅力を前面に出してOCの満足度を上げ、早期の学生確保を目指す。また、SNSの情報発信を充実させ、OCでのインスタライブなども行い、新学科の認知度を高める。

教育の充実

【目標】 講義・実習の充実とともに、地域のさまざまなフィールドでの活動を通じて学びを深める

【計画】 ①新たな水槽にて水生生物の飼育、②ひとつのフィールドで、分野の異なる複数の教員により生物観察・環境調査等の多角的な実習を行う、③自治体と連携し、地域の環境保全活動にかかわる、④学生の状況について、チューター間で密に情報共有し、学生をサポートする体制をつくる。

研究推進

【目標】 競争的資金の獲得

【計画】 学科内学術交流会を定期的に関き、教員間の相互理解と共同研究体制の構築をすすめ、外部資金獲得につなげる。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地元自治体、地域と連携し、淡路島の環境保全にかかわる教育・研究活動を推進する。

【計画】 南あわじ市と連携し、①イングランドの丘の活用、②ウバメガシの活用を計画している。

国際化の推進

【目標】 他キャンパスの海外留学生との交流

【計画】 農学部全体で、さなぶりやくにうみ祭といったイベントに他キャンパスの留学生を招待し、学科学生との交流機会を設ける。

外国語学部 外国学科の計画

学生確保

【目標】 入学充足率100%を目標とする。

【計画】 専願入試の応募者をどれだけ多く確保するかが重要であるため、これまでの取組みに加え、オープンキャンパス参加者の増加を目標として、以下の取組みを工夫し実施する。

＜参加促進のための情報施策＞

・オープンキャンパスへの参加促進のため、高校生と接触機会があれば積極的に参加へのアピールをおこなう。

・高校の教員との接触の機会をもうける（英語教育研究会等）。

＜オープンキャンパスの内容の見直し＞

・フリートークではブースを設け、関心のある説明内容に参加者を誘導する工夫をする。

・着席して、説明をする時間を減らし、フリートークの時間を増やす。

なお、次年度より、社会科学部外国学科に改組することが準備中であり、新しい「外国学科」の魅力を高校生や保護者に対してどのようにアドレスするのか検討、実施していく。

教育の充実

【目標】 学生たちが楽しく学び、自己効力感を育み、やる気スイッチを入れられるよう、教育の充実を図る。国際交流の強化。年間退学者・除籍者0名を目標とする。

【計画】 教育の充実においては、学びあい、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを授業により一層取り入れていく。海外教育提携校との積極的な国際交流を行い、学生同士が刺激しあって成長する機会を増やす。本年度は、次の2項目における取組みを強化する。 <日本人学生の英語学習>

・現地海外留学で学生らのモチベーションアップを図る。

・学生らの成功体験を積み重ねる。

・積極的に褒める。

・これらによって、学生が主体的に学習する習慣を身につけるよう指導する。

＜留学生の日本語学習＞

・本年度、留学生用日本語科目にCクラスを設定し、レベル別のクラス編成を充実させる。

・授業以外にも週2コマのN2対策講座と日本語講座（留学生用）を設定し、早期にN2取得を目指した体制を整える。

・遅刻、欠席の状況と学力は比例関係にあることから、遅刻したら授業への出席を認めないなど厳格な対応に努める。

なお、次年度の社会科学部外国学科に改組が予定されていることから、新カリキュラムへの移行に向けた準備を的確に行う。

研究推進

【目標】 各教員が研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。

【計画】 学科研究紀要『グローバルデザイン論攷』を活用し、研究の活性化を図る。また、科研費等の応募を積極的に勧奨する

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 地域連携・地域貢献を推進するため、学生リーダーなどの人材育成に取り組む。

【計画】 岡山キャンパスが所在する地域の教育機関における交流イベントへの積極的な参加を行う。英語教員による「まちなかゼミナール」への出講を積極的に行う。「日ようび子ども大学」など大学コンソーシアム岡山の事業への積極的な参加を行う。岡輝中学校区の「輝け岡輝！」や公民館の異文化交流イベントなど、キャンパスがある地域のイベントに積極的に貢献する。これら活動においては、学生のリーダー育成が課題であるため、主体的に行動できる学生の育成を日ごろから意識的に行う。

国際化の推進

【目標】国際交流を積極的に進める。

【計画】海外教育提携校からの夏季短期研修団の受入れなどに、積極的に取り組むことにより、学生の異文化理解の増進、国際感覚の醸成を行う。交換留学生を含む留学生と日本人学生との交流の機会を増やし、異文化理解や学びあいの機会を提供する。

アニメーション学部 アニメーション学科の計画

学生確保

【目標】 定員充足率を100%にする。

【計画】 学科の知名度を上げることと在学生の進路指導に対する満足度を高めることを重点的に実施する。

- ① アニメ業界をはじめとして、広告、印刷、TV、WEB関係の就職先を紹介することで入学志望者とその保護者から信頼される教育内容を構築し、近隣の高校とも連携する。
- ② 就職率100%となった昨年度の実績やアニメスタジオに就職した卒業生の声をオープンキャンパスに反映させる。
- ③ InstagramなどSNSで学科ブランドを明確に打ち出して就職先がイメージできる広報戦略を展開する。

教育の充実

【目標】 学生の満足度を高め、就職率を100%にする。

【計画】 就職に直結する内容を検討し、学生に適した課題内容を検討する。

- ① アニメーション業界に必要なスキルの教育方法を採用し「実践的な知識を自ら学ぶ力」を高め就職率を高める。
- ② 一般就職希望者に必要な「多様化する社会で生き抜く力」を授業に取り入れ、全体の就職率を高める。
- ③ デジタル環境を充実させ、学生との対話の機会を増やし「自分の可能性を信じる力」を醸成する。
- ④ 留学生の日本語学習を支援できる環境を整える。

研究推進

【目標】 各教員の専門性を高める環境を整え科研費申請を3件以上増やす。

【計画】 各教員による専門的研究を自由に行うことができる環境を整える。

- ① 各教員の研究環境を安定させることで各自が具体的な研究を深く行う。
- ② 各科目で学生にとって有効な教育法を研究する。
- ③ 科研費への応募のための研究会を学科内で行う。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】 学科のブランド力を高めることで地域の団体との連携を深め貢献する。

【計画】 地域連携の具体的な案を高校や関係団体と検討し実施する。

- ① 学生が地域で活躍できる場を創出できるよう商工会議所などと情報共有する。
- ② 地域の高校と連携し、高校の入学者も増加するような具体策を検討する。
- ③ ゲームジャムなどのイベントを支援しながら貢献する。

国際化の推進

【目標】 留学生の満足度を高め、日本人学生の国際的な視野を広める。

【計画】 別科や各国支局長等との連携を深め、留学生の満足度を高める。

- ① 留学生の進路希望の聞き取り回数を増やして個別対応し、満足度を高める。
- ② 日常的国際化を進めるために、学科内で日本人と留学生の交流の場を増やす。
- ③ 留学生の日本語能力、日本人の英語能力を高める具体的な方策を学科内で行う。

人間科学部 人間科学科の計画

学生確保
【目標】定員充足率100%達成を目指す。 【計画】オープンキャンパスの参加者の満足度を向上させる。高校ガイダンス等を活用して、本学科の魅力を発信する。在学生の満足度向上に努め、口コミによる広報効果を高める。
教育の充実
【目標】教育の充実を図り、退学者・除籍者0%および就職率100%達成を目指す。 【計画】教員が連携して、学生1人ひとりに応じた丁寧な対応を実施し、学習の促進及び大学生活への適応を支援する。国家試験を目指す専攻は、国試合格率100%達成を目指す。
研究推進
【目標】競争的資金の獲得を目指す。 【計画】科研費や助成金等の外部研究費に応募する。論文や著書の執筆、学会発表等の実施を奨励する。教員間の学術交流に取り組む。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】地域連携・地域貢献を継続する。 【計画】高梁市や関連施設との連携を通して、地域の課題解決に向けた取り組みを行うとともに、地域に貢献できる人材育成に取り組む。
国際化の推進
【目標】国際人としての視点育成を目指す。 【計画】授業等を通して国際的な視点の学習に取り組む。留学生との交流を通して異文化理解を促進する。

社会学研究科の計画

学生確保

【目標】博士(前期)課程、博士(後期)課程の入学者定員100%の達成

【計画】ウェブサイト、論文・著書の公表、講演、学会の出席、学科の通常授業(学内進学)などを通じて魅力ある社会学研究科の情報発信を積極的に行う。

教育の充実

【目標】学習満足度の向上と退学者ゼロ%の達成

【計画】学習満足度の向上のための充実した教育環境の提供、懇切丁寧な研究指導(主指導教員と副指導教員2名)と留学生への日本語学習支援に力を入れる。

- ・院生が抱えている悩みを早期に把握し、解決して退学者ゼロ%を達成する。
- ・留学生の論文執筆のための学習支援をし、修了できるようにする。
- ・社会学研究科論叢を刊行する(OB, OGの投稿)

研究推進

【目標】科研の採択と外部資金獲得の向上、研究環境の提供

【計画】各教員は科研の採択、外部資金獲得のために努力する。また、研究力レベルアップと研究科のブランド力を高めるために論文、著書の公表、学会出席および学会発表ができるような研究環境を提供する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地域連携・地域貢献の推進

【計画】各教員は教育・専門分野を活かして講演、公開講座、ボランティア活動などの社会(地域)貢献活動に積極的に取り組む。

国際化の推進

【目標】留学生の異文化理解の促進、留学生の地域住民との交流

【計画】授業を通して異文化・国際事情などの理解の促進、留学生の日本国内の就職支援と学習支援(日本語教育)の充実、留学生と地域住民との交流を図る。

保健科学研究科の計画

学生確保
【目標】定員充足率100%達成を目指す。 【計画】学会ブースや広告、ウェブサイト等を通して研究科の魅力を発信する。在学生の満足度向上に努め、口コミによる広報活動を進める。学部大学院一貫教育を推進する。
教育の充実
【目標】研究指導や学位審査の質を向上し、退学者・除籍者0%を目指す。 【計画】研究指導は主指導1名、副指導2名で行い、学位論文の質向上に取り組む。学位審査は主査1名、副査2名で厳正に実施し、学位の価値向上に努める。
研究推進
【目標】競争的資金の獲得を目指す。 【計画】大学院生の論文の投稿・掲載を支援する。科研費や助成金等の競争的資金に応募する。大学院生と教員の論文・著書の執筆や学会発表を積極的に奨励する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】地域連携・地域貢献を推進する。 【計画】地域の課題解決に資する研究教育活動に取り組む。
国際化の推進
【目標】国際的な研究動向を理解し、国際学会発表・英語論文掲載を目指す。 【計画】英語論文等の読解を通して世界の研究動向を理解する。研究で得られた知見を国際的に発表する。

(通信制)保健科学研究科の計画

学生確保
【目標】定員充足率100%達成を目指す。 【計画】学会ブースや広告、ウェブサイト等を通して通信制大学院の独特の魅力を発信する。在学生の満足度向上に努め、口コミによる広報活動を進める。
教育の充実
【目標】研究指導や学位審査の質を向上し、退学者・除籍者0%を目指す。 【計画】研究指導は主指導1名、副指導2名で行い、学位論文の質向上に取り組む。学位審査は主査1名、副査2名で厳正に実施し、学位の価値向上に努める。
研究推進
【目標】競争的資金の獲得を目指す。 【計画】大学院生の論文の投稿・掲載を支援する。科研費や助成金等の競争的資金に応募する。大学院生と教員の論文・著書の執筆や学会発表を積極的に奨励する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】地域連携・地域貢献を推進する。 【計画】地域の課題解決に資する研究教育活動に取り組む。
国際化の推進
【目標】国際的な研究動向を理解し、国際学会発表・英語論文掲載を目指す。 【計画】英語論文等の読解を通して世界の研究動向を理解する。研究で得られた知見を国際的に発表する。

心理学研究科の計画

学生確保
広報では国家資格取に向けての教育環境を知らせる。
教育の充実
公認心理師の合格を目指した指導を行う。
研究推進
博士課程学生の学術論文の投稿・掲載を支援する。
地域連携・地域貢献の推進
実習や研究を通じて地域との連携を深める。
国際化の推進
地域の国際化を支える研究を推進する。

(通信制)心理学研究科の計画

学生確保
HP等で積極的に教育環境を周知する。
教育の充実
学術雑誌掲載レベルの研究を目指して指導を行う。
研究推進
学会発表、論文投稿を推進する。
地域連携・地域貢献の推進
実習や研究を通じて地域との連携を深める。
国際化の推進
国際的な動向を視野に入れて研究を進める。

地域創成農学研究科の計画

学生確保
【目標】定員充足率100%を目指す。 【計画】学部・大学院一貫教育のアナウンスを行い、大学院入学への意識づけを早い段階から行っていく。
教育の充実
【目標】きめ細かい指導 【計画】他大学、異分野からの進学があったため、講義の理解度に注意しながら、より細やかな指導を行う。
研究推進
【目標】競争資金の獲得 【計画】学部内学術交流会の開催を計画し、教員間の相互理解と学科間での共同研究体制を構築する。
地域連携・地域貢献の推進
【目標】地域企業及び地域との連携をさらに強化する。 【計画】地域企業との協議会に積極的に参加し、学術面における地域企業との共同研究を活性化。また、南あわじ市「4つの研究会」を「3つの研究会」へと再編する。
国際化の推進
【目標】海外留学生との交流の活発化 【計画】岡山キャンパス、高梁キャンパスの海外留学生へ、農学部主催のイベント(さなぶり祭、くにうみ祭)のアナウンスを行い、より多くの参加者を確保し、学部学生との文化の相互理解を促進する

(通信制)連合国際協力研究科の計画

学生確保

【目標】

本研究科の教育・研究上の特色を明確に発信し、入学前Web相談から出願・受験へとつながる支援体制を充実することにより、入学定員充足率100%の達成を目指す。

【計画】

Google検索広告、協力隊を育てる会ニュースへの掲載、研究科ウェブサイトの充実等、これまで実施してきた広報活動を継続するとともに、その効果を検証し、志願者の関心やニーズに即した情報発信へと改善を図る。特に、入学前Web相談については、相談者の進学目的、研究関心、学修上の不安等を丁寧に把握し、受験に結びつくように、きめ細かな対応を行う。また、オンライン入試、ハイフレックス型授業など、本研究科が多様な学修環境に対応している点を積極的に周知し、社会人、留学生、遠隔地在住者等を含む幅広い志願者の確保に努める。

教育の充実

【目標】

ハイフレックス型授業や学際的な科目編成を活かし、多様な学修ニーズに対応した教育を推進するとともに、教育の質保証と学修成果の可視化を図り、教育内容の更なる充実を目指す。

【計画】

夏季・冬季スクーリングにおいてハイフレックス型授業を継続して実施し、対面参加者とオンライン参加者の双方にとって効果的な学修環境の整備に努める。授業方法、教材提示、質疑応答、研究指導の進め方等について教員間で情報共有を行い、授業運営の質の維持・向上を図る。また、学際的な知識を養う共通選択科目を通じて、多様な専門領域への理解を深める教育を行うとともに、院生一人ひとりの学修状況や研究の進捗を適切に把握し、個々の研究テーマに応じた丁寧な指導を行う。

研究推進

【目標】

院生の研究力を高め、修士論文の質的向上を図るとともに、優れた研究成果については学術雑誌への投稿等につなげることを目指す。

【計画】

修士論文の作成過程において、研究課題の設定、先行研究の整理、研究方法の妥当性、論理構成、考察の深まり等について、段階的かつ継続的な指導を行う。研究発表や中間報告の機会を活用し、複数の教員から助言を受けられる体制を整えることで、院生が自らの研究を客観的に見直し、改善できる機会を充実させる。また、修了後も学術雑誌への投稿が期待される研究については、必要に応じて継続的な助言を行い、研究成果の発信を支援する。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】

地域と連携した教育・研究活動を充実させ、フィールドワークを通じて地域課題への理解を深めるとともに、地域貢献につながる実践的な学修機会の確保を目指す。

【計画】

南あわじ市津井地区において実施している「地域調査法特論」について、院生の関心や研究テーマとの関連がより明確になるよう取り組み、受講意欲の向上を図る。地域調査の方法、地域課題の把握、住民や関係者との関わり方などを示し、実践的な学びにつながる授業内容を提供する。また、地域で得られた知見を教育・研究活動に還元するとともに、地域との継続的な関係づくりを進め、本研究科の特色ある地域連携活動として位置づける。

国際化の推進

【目標】

本研究科としての特色を活かし、国際的な視点に基づく教育・研究活動を継続的に推進するとともに、国際化の質的向上を目指す。

【計画】

北米、アジア、アフリカ、ヨーロッパなど多様な地域を対象とした教育・研究活動を継続し、院生が国際社会の諸課題を多角的に理解できるよう指導を行う。各教員の専門分野や研究対象地域を活かし、国際協力、人間の安全保障、人間開発、地域社会の課題等について、学際的・国際的な視点から学ぶ機会を充実させる。また、留学生や海外経験を有する院生を含め、多様な背景をもつ学生が相互に学び合える教育環境の整備に努め、本研究科における国際化の質的向上を図る。

留学生別科学科の計画

学生確保

- ・大学進学率100%を目標とし、各学部・学科と連携しながら、ガイダンスや交流会を実施する。
- ・海外及び国内協定校のみならず新規協定校において別科入学前の現地セミナーを入試広報室とも協力し実施するとともに、進学意欲の高い学生の確保に努める。
- ・新たな協定校を開拓するために、現地調査を行う。
- ・設置校への進学意欲を高めるため、学生部や留学生課と連携して、学部生との交流機会を増やす。

教育の充実

- ・学生の学習面に関する情報を教員間で共有することによって学生の学習意欲を向上させるためのサポートを充実させる。
- ・日本語の習得に加え、日本文化や日本事情への理解を深めるための活動を行う。
- ・海外の日本語教育機関とも連携し、渡日前の教育体制を検討する。

研究推進

- ・今年度、認定日本語教育機関の申請を行う予定であるが、それにとともなうカリキュラム改定に向けて文部科学省が策定した「日本語教育の参照枠」を研究する。
- ・「日本語教育の参照枠」を参考に留学生別科カリキュラムへのローカライズを行う。

地域連携・地域貢献の推進

- ・地元のイベントやボランティア活動への協力・参加を通じて、学校（留学生）も地域（行政や民間団体等）と連携し、多文化共生に向けたまちづくりの発展に貢献する。
- ・地域の国際活動をされている企業や団体から外部講師を招き、特別講義を実施する。

国際化の推進

- ・多文化共生をテーマとし、外国人留学生の自国の文化紹介ができる場を設け、相互理解促進を図る。
- ・多文化共生社会に必要なコミュニケーション・ツールである「やさしい日本語」の普及に努める。



輝け、自分。羽ばたけ、未来へ。

吉備国際大学

Kibi International University